

環境側面からの基本施策～環境分野の課題への着実な対応～

環境と人・地域社会

取組総括

環境活動に取り組む市民や企業、団体への支援や連携を推進。また、これらの主体が結びつく機会の創出や環境活動の輪を広げる取組を推進。これらの取組を通じて『横浜エコライフスタイル』への転換を後押し。

主な取組状況

- ・環境保全活動助成金を交付 (H24 まで 19 団体)【目標：20 団体】
- ・公園愛護団体支援 (H24 まで 2,407 団体)【目標：2,430 団体】
- ・ハマロードサポーター団体支援 (H24 まで 347 団体)【目標：300 団体】
- ・水辺愛護団体支援 (H24 まで 89 団体)【目標：100 団体】
- ・青少年の自然・社会体験プログラムを実施 (H24：3,614 人)【目標：3,000 人/年】
- ・環境教育実践推進校を指定 (H24 まで 44 校)【目標 (H26 まで)：56 校】

環境と経済

取組総括

環境分野における市内中小企業の研究開発等への支援や、節電・省エネ対策に係る様々な支援を実施。また、スマートシティや「横浜水ビジネス協議会」の取組では、国際会議やセミナーの開催を通じて、市内企業のビジネスマッチングの機会創出や、諸外国との協定締結など、国際展開及びビジネスチャンスの拡大を推進。

主な取組状況

- ・市内防犯灯を LED 化 (H24 まで 26,324 灯)
- ・省エネを支援するアドバイザーの派遣、省エネセミナー開催
- ・「横浜デイ in Smart City Week」を開催し、横浜市や市内企業が持つ環境技術・ノウハウを紹介 (H23, 24)
- ・「横浜水ビジネス協議会」の取組を推進 (会員企業との合同調査 (@フィリピン、インド)、会員企業と海外上下水道関係者とのビジネスマッチングの実施 (@スリランカ、ブラジル)、会員企業・シンガポール公益事業庁・横浜市内で覚書締結など)

環境とまちづくり

取組総括

「エキサイトよこはま 22」(横浜駅周辺大改造計画)におけるまちづくりガイドラインの改定や MM21 地区におけるスマートシティの取組、コミュニティサイクルの社会実験など、都心部のエコまちづくりを推進。
「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」や脱温暖化モデル住宅の実証実験など、環境に配慮した建築物の普及を推進。

主な取組状況

- ・エキサイトよこはま 22 エリアにおける環境に係るガイドラインを改定
- ・MM21 地区にて、CEMSとBEMS、HEMS、FEMS、蓄電池 SCADA等を連系し、システムの試運用を開始
- ・横浜都心部コミュニティサイクルの社会実験を実施中 (H23～25)
- ・「環境未来都市計画」のリーディング事業として、「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」を 3 地区で開始
- ・十日市場町の脱温暖化モデル住宅 11 棟にて、実証実験を実施
- ・モビリティマネジメントの実施 (H24 まで 11 か所)【目標：8 か所】
- ・地域交通サポートの取組 (H24 まで 17 地区)【目標：18 地区】
- ・バリアフリー化整備延長 (H24 まで 26.1km)【目標：30.7km】

地球温暖化対策

取組総括

平成 23 年度の温室効果ガスの総排出量(速報値)は、2,001 万トン-CO₂で、前年度に比べると3.8%増加。京都議定書の規程による基準年(平成 2 年度)に対しては 18.7%超過。
震災以降、エネルギーの自立化・分散化が求められる中、再生可能エネルギー等の普及拡大に向けた経済的支援や実証実験、啓発を推進。

主な取組状況

- ・太陽光発電設備の設置補助 (H24 まで 11,542 件)【目標：4,400 件】
- ・電気自動車等の登録台数 (H24 まで 1,705 台)【目標：1,300 台】
- ・充電スタンドの導入補助 (H24 まで 133 基)【目標：650 基】
- ・YSCPスマートハウスの整備 (H24 まで 1,898 件)【目標：3,000 件】
- ・環境家計簿 (H24：約 16,000 枚配布)
- ・子ども「エコ活。」大作戦 (H24：27,885 人)【目標：32,000 人/年】
- ・ヨコハマ・エコ・スクール (H24：418 講座)【目標：250 講座/年】
- ・横浜グリーンバレーにて、金沢区、元町商店街でEVシェアリング及び非常時・災害時の新たな活用を開始
- ・ヨコハマモビリティ“プロジェクトZERO”にて、超小型モビリティの青色防犯パトロール、訪問診療・看護の新たな活用を開始

水とみどり

取組総括

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」に基づき、まとまりのある樹林地の保全や、地域での緑のまちづくりの取組を推進。
良好な水環境づくりに向けて、雨水貯留タンクの設置助成や雨水浸透ますの設置、浸水対策などの取組を推進。

食と農

取組総括

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」による水田の保全や、担い手となる農家の支援等により農地の保全を推進。また、「食」と「農」の連携による地産地消の推進など、横浜農業の振興に向けた取組を推進。

資源循環

取組総括

「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」に基づき、市民・事業者・行政が更なる協働のもと、3Rの推進、とりわけ最も環境にやさしいリデュース(発生抑制)の取組を進めるとともに、なお残るごみを適正に処理することで、限りある資源・エネルギーの有効活用と確保に努め、環境負荷の低減を目指した取組を推進。

生活環境

取組総括

法や条例に基づく工場・事業場への適切な規制指導や PM2.5 を含めた大気等の常時監視など、市民生活の安全と安心を確保する取組を着実に実施。放射線対策については、市内の公園や市民の森、保育所・小中学校の園庭・校庭、市民利用施設周辺のほか、水道水、食品等で放射線量を測定し、継続して情報を発信。

生物多様性

取組総括

平成 23・24 年度と、「ヨコハマ環境行動フェスタ」や環境教育出前講座を実施。平成 24 年度は、「ヨコハマフェスティバル 2012」を開催。併せてこの期間中に「生物多様性自治体ネットワーク定期総会」や「生物多様性全国ミーティング」などを集中的に開催し、生物多様性の取組を広く発信。これらの取組を通じて、『横浜エコライフスタイル』への転換を後押し。

主な取組状況

- ・環境教育出前講座 (H24：115 件)【目標：130 回/年】
- ・「ミニミニ鳥図鑑」を発行 (H24：30,000 部)
- ・「横浜つながりの森構想」を策定
- ・河川域生物モニタリング調査 (H23)、海域生物モニタリング調査 (H24)
- ・田んぼの生き物調査 (H24 まで 7 か所)
- ・ミツバチやトンボに着目した取組を進める市民活動への助成及び既存団体との連携 (H24 まで 3 件)
- ・国連大学高等研究所や横浜国立大学との生物多様性の取組に係る共同研究の検討
- ・繁殖センターでの取組推進 (H24 までカササギ 21 羽・カゲロウ 2 羽を繁殖、H24：カササギ 25 羽をインドネシアへ、コノガキ 6 羽をオランダへ送致)

主な取組状況

- ・緑地保全制度による緑地の保全 (H24 まで 1,137.6ha)【目標：1,949ha】
- ・森の保管理計画の策定 (H24 まで 14 か所)【目標：15 か所】
- ・地域緑化計画の策定 (H24 まで 15 地区で策定中)【目標：30 地区】
- ・園庭・校庭の芝生化 (H24 まで 44 園 50 校)【目標：100 園 40 校】
- ・雨水貯留タンクの設置助成 (H24：191 個)【目標：180 個/年】
- ・雨水浸透ますの設置 (H24：41 個)【目標：50 個/年】
- ・浸水対策の河川整備率 (H24：86.4%)【目標：86.3%】

主な取組状況

- ・多面的機能を持つ水田の保全 (H24 まで 114.4ha)【目標：120ha】
- ・長期貸付農地の確保 (H24 まで 49.1ha)【目標：70ha】
- ・農ある地域づくり事業の実施地区 (H24 まで 11 地区)【目標：11 地区】
- ・農園を楽しむ世帯数 (H24：7,056 世帯)【目標：7,000 世帯/年】
- ・地産地消新ビジネスモデル事業への支援 (H24 まで 13 件)【目標：15 件】
- ・地産地消新事業に対する支援 (H24 まで 7 件)【目標：6 件】

主な取組状況

- ・発生抑制(リデュース)の取組 (H24 まで 10 取組)【目標：12 取組】
- ・大規模事業所の立入調査 (H24 まで 2,578 件)
- ・中小事業所の立入調査及び現況確認 (H24 まで 7,747 件)
- ・資源集団回収による古紙回収率 (H24：95.7%)【目標：100%】
- ・PCB、アスベスト廃棄物の適正処理に向けた立入調査を継続して実施